

せじきえ ほうよう
「施食会」という法要が曹洞宗にはあります。

漢字では、「食を施す会」と書きます。多くの曹洞宗の寺院では、年に一度、七月や八月のお盆の時期、また五月や秋などに行っています。

この法要は、ご先祖さまの供養の一つなのですが、普段行っている年回法要などは少し違う特別な法要です。

せじきえ
施食会が営まれる時、お寺の本堂にはご本尊様が祀られている須弥壇とは別に、特別にこの法要のためだけに棚が設けられます。この棚の上に、お燈明を灯し、お華を飾り、お菓子や果物の他、旬の新鮮な野菜、ご飯やお水、「水の子」といわれる洗ったお米となすやきゅうりをさいの目に刻んでまぜたものなどをお供えします。飾り方は地方やお寺によってさまざまですが、「食を施す法要」というだけあって、多くのお供物をお供えいたします。

そして、棚の一番高い段の中央に、「三界萬霊」と書かれた大きな位牌を安置します。この真ん中に祀られる「三界萬霊」がこの施食会での供養の対象なのです。「三界萬霊」の三界とは、仏教で説かれる「欲界・色界・無色界」という三つの世界のことをいい、「三界萬霊」とはすべての世界のすべての精霊、つまり「全世界の一切の存在」という意味です。

私たちと縁の深い精霊や、一見関係がないと思われる精霊など、この世界のすべての精霊に対し、大勢の僧侶がお経を唱え食事をお供えし供養をします。

ご先祖さまの年回法要は、そのご先祖さまだけの供養ですが、施食会では、世界の一切の精霊に対して供養をし、そしてその功德をご先祖さまに回らし向けるのです。遠回りをする事によって、より多くの精霊に対して供養がなされるのです。

お釈迦さまは、縁起の法を説かれました。その縁起の法とは、私たちの存在は、すべて縁によって成り立っているということです。家族や身近な人との縁はとても深いので感じやすいのですが、その他のさまざまな縁、一見関係がないと思われる人やものも私たちにとっては大切な縁なのです。私たちは、そのことになかなか気がつかないのです。

縁の大切さを説く仏教だからこそ、施食会では、世界の一切の精霊に対して供養をします。

施食会に参列することがありましたら、ご先祖さまと共に、世界の一切の精霊に手を合せ、お釈迦さまの説かれた縁の大切さを思い出してみてください。

— 終 —